

岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ発信する広報誌

岐大の いぶき

2023-2024
Autumn-Winter No. 46

学び 究め 貢献する



岐大酵母を使用した
クラフトビールが
できるまで



酒

SAKE GAKU

学



酒造りを実践的に学ぶ
清酒醸造実習

ワインテイastingにおける
日本語表現

酒を醸す卒業生



岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ発信する広報誌

岐大の いぶき 2023-2024 Autumn-Winter No.46

published by

MAKE NEW STANDARDS.
東海国立
大学機構



04-11 【特集】酒学

岐大酵母を使用したクラフトビールができるまで
岐阜大学応用生物科学部 中川 智行 教授
岐阜県食品科学研究所 久松 賢太郎 さん
岐阜大学大学院 自然科学技術研究科2年 成瀬 美卯 さん

酒造りを実践的に学ぶ清酒醸造実習
岐阜大学応用生物科学部 矢部 富雄 教授
岐阜県食品科学研究所 川部 美千代 さん/澤井 美伯 さん
ワインテイastingにおける日本語表現
岐阜大学日本語・日本文化教育センター 吉成 祐子 教授
酒を醸す卒業生
合資会社 山田商店 専務 2011年地域科学部卒業 山田 一光 さん

12-13 先輩の声

大きな成功の裏には膨大な数の失敗がある。
失敗より挑戦しないことを恐れてほしい。
アステラス製薬株式会社 元代表取締役会長
1964年 農学部獣医学科卒業 竹中 登一 さん

14-17 岐大で生まれるもの。最先端研究の現場。

外国にルーツを持つ児童が授業に必要な日本語を
遊びながら学べる、「いみあわせかあど」を開発。
岐阜大学教育学部 学校教育講座 今井 亜湖 教授
3Dコンクリートプリンタを活用した部材の開発や
手軽にできる補修「橋梁DIY」の普及。
インフラの高機能・長寿命化技術を世の中へ。
岐阜大学工学部 社会基盤工学科・先端材料・構造研究室 國枝 稔 教授

18-19 いまを駆ける!岐大生FACE

「3人で力を結集して開発したVR作品が国際大会で
大賞を受賞。この経験を今後の糧にしたい。」
岐阜大学大学院 自然科学技術研究科1年
小木曾 直輝 さん/阪井 啓紀 さん/酒井 康希 さん

20-21 Topics 岐阜大学の取り組み Apr.2023→Nov.2023

22 岐阜大学基金

特集 酒学

本学の応用生物科学部は10年ほど前に
日本酒文化を実践的に学ぶ教育プログラム
「酒と食の文化の実践的理解」を立ち上げました。
その一環として、岐阜県内の研究機関や企業と連携し、
オリジナルの日本酒やビールの研究・開発などを行っています。

大学が地域の企業とともに酒造りに携わることは
学生および教員が商品開発や酒の歴史・文化を現場で学ぶ
貴重な機会であり、研究成果や地域の活性化に
つなげることが期待されています。

今回の特集では、微生物学や言語学などさまざまな領域や
独自の観点から「酒」を研究する教員や学生の取り組みを紹介。
知的好奇心をくすぐる「酒学」の世界をご案内します。

2021年(令和3年)
岐阜県食品科学研究所の協力の
もと、清酒酵母「GY115株」を使
用した岐阜大学エールを試験醸
造。生産を岐阜麦酒醸造に依頼

2018年(平成30年)
蔵元やまだ(八百津町)の協力の
もと岐阜大酒を製造

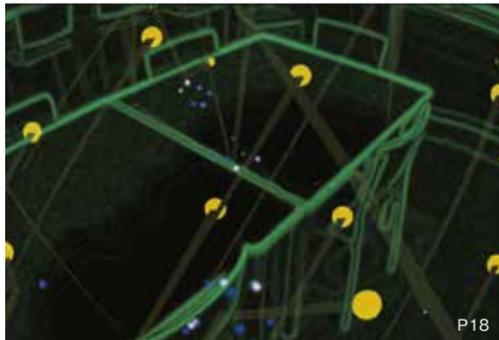
2014年(平成26年)
岐阜県食品科学研究所、岐阜県酒
造組合連合会、JA全農の協力の
もと、岐阜大酒商品化へ向けて試
験醸造開始

2023年(令和5年)
岐阜大学エール「多望之春-各務」
が完成。応用生物科学部創立100
周年式典でお披露目。ラベルデザ
インは教育学部の山本政幸教授
が担当

2019年
(平成31年/令和元年)
岐阜大酒「多望之春 岐山/曲阜」
が完成。岐阜大学創立70周年記
念式典でお披露目

2016年(平成28年)
岐大酵母として「GY115株」を
選抜

2013年(平成25年)
「岐阜大酒プロジェクト」がス
タート。応用生物科学部 中川智
行教授が旗振り役。講義「酒と食
の文化の実践的理解」開講





岐大酵母を使用した クラフトビールができるまで



岐阜大学応用生物科学部は創立100周年を記念し、岐阜県食品科学研究所（以下食科研）、岐阜麦酒醸造と共同でオリジナルのクラフトビール「多望之春-各務」を開発。プロジェクトを推進した中心メンバーに詳しい話を伺いました。



岐阜県食品科学研究所
久松 賢太郎 さん

岐阜大学応用生物科学部
中川 智行 教授

岐阜大学大学院
自然科学技術研究科2年
成瀬 美卯 さん



右のシャーレは、清酒酵母「GY115株」を培養したもの。生命力が強く、麦芽糖の発酵性を有するため、ビール製造においても使用が可能。日本酒とビールの良さを両立する新感覚の酒につながるポテンシャルを秘めている。



岐阜大酒の成功を足掛かりに 今度はビール造りに挑戦

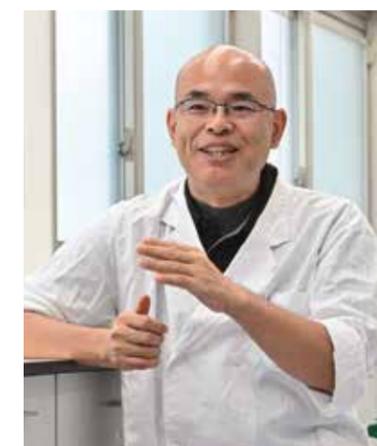
岐阜大学の酵母を使ったクラフトビールの開発は、令和3年の夏頃から本格的に始まりました。そもその発端となったのが、平成25年からスタートした「岐阜大酒プロジェクト」です。応用生物科学部では、さまざまな先生たちが農学の研究に取り組んでいます。農学とは、食料となる穀物や野菜、動物、さらにはそれを取り巻く生態環境などを対象に、私たちのより良い生活実現のための「実学」を目指して発展してきた学問です。ただ、21世紀に入る頃には、遺伝子レベルで細胞を分析するなど、研究の細分化が急速に進み、以前のような研究の横のつながりが薄れていきました。そこで、あらためて原点に立ち返り、さまざまな先生と一緒に取り組める学部横断的なプロジェクトを立ち上げることができないかと考えるようになりました。そこで着目したのが「お酒造り」です。お米の栽培、そこに使われる肥料、発酵に欠かせない微生物、完成したお酒の評価など、各分野の先生方が手を携えて取り組むことができます。平成25年には「酒と食の文化の実践的理解」という講座を開講。さらに当時の学長から「数年後に控える大学創立70周年の記念事業として岐阜大学のお酒をつくりたい」と打診され、教育プログラムと並行して岐

大酒プロジェクトが本格的にスタートすることになったのです。

平成28年には、岐大酵母として「GY115株」を選抜し、平成30年には、岐阜県八百津町にある「蔵元やまだ」さんのご協力のもと、お酒造りを開始しました。そして平成31年には、岐阜大酒「多望之春 岐山／曲阜」が無事完成。岐阜大学創立70周年記念式典でお披露目し、大きな反響を呼びました。こうして成功を収めた岐阜大酒プロジェクトを発展させる形で始まったのが、今回のクラフトビール「岐阜大学エール」の開発プロジェクトです。

清酒酵母の特性を生かした 香り豊かなビールを目指す

岐阜大学エールに使われている酵母は、岐阜大酒に使用したものと同一「GY115株」です。私たち人間にもいろんな人種があるよう



に、酵母にもさまざまな個性があります。一口に酵母といっても、ビール酵母、パン酵母、清酒酵母、ワイン酵母などがあり、私たちは酵母の個性を巧みに利用することで、さまざまな食品をつくり出しています。裏を返せば、私たち人類は、酵母を飼いならし、用途に合うように家畜化してきたとも言えます。

私たちが長い年月をかけて家畜化してきた清酒酵母は、お米のでんぷんを分解してできたグルコースに特化した酵母です。麴の力ででんぷんを一番小さな単位であるグルコースまで分解し、それを清酒酵母が食べることで日本酒ができます。一方、ビールの場合には、麦芽が使われます。麦芽の中の酵素を活性化することででんぷんを分解すると、麦芽糖というグルコースが2つつながったものができます。一般的な清酒酵母では、この麦芽糖を食べることができません。最小単位のグルコースを食べることに特化した酵母へと家畜化してきたからです。ただ、私たち日本人は、清酒酵母を育種し、豊かな香りをつくり出せるように進化させてきました。そのため、この香りを生み出す清酒酵母をうまく使えば、日本酒のような香りを持ったユニークなビールがつけられるのではないかと考えました。そこで、麦芽糖を食べられる清酒酵母を探そうと「GY115株」を調



令和5年6月に行われた「岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念事業 祝賀会」にて、岐阜大学エール「多望之春-各務」を初披露。「多望之春-各務」は、岐阜市内の「長良川デパート」「THE GIFTS SHOP」などで購入できる。

べてみると、清酒酵母でありながら麦芽糖を食べてアルコールをつくる能力を備えていることが分かり、これを生かしたビール造りに取り組むことになったのです。

まずは食科研の久松さんが予備検討をしてくださり、「GY115株」を使ってビールをつくれることが分かりました。食科研は、県内の食品企業を支援することが目的の機関であるため、クラフトビールが注目を集めるなか、何か役立つ研究ができないかと考えていました。ただ、ビールの原料となる麦とホップについては、育種に取り組もうにも長い年月がかかります。一方、岐阜大酒プロジェクトで成功を取めた酵母を生かせば、スピーディーに岐阜県オリジナルのビールを開発できますし、食科研で酵母を培養し、県内の醸



造所に配ることができれば事業者の支援にもつながります。久松さんは岐阜大学出身で、学生時代には私の隣の研究室で学んでいたという縁もあり、食科研とタッグを組んでプロジェクトを進めることになりました。

岐阜県を岐大酵母の力でクラフトビールの聖地に

自然科学技術研究科で学ぶ成瀬さんには、食品微生物学研究室の活動の一環として、酵母の性質の違いを調べてもらいました。岐阜大酒をつくった時と同じように、50種類ほど保管されている酵母を、麦芽糖を含む培地上に植菌し、一定の条件下に置いてどれだけコロニー（酵母細胞が形成した集落）ができるのかを調べ、ビール造りに最も適した酵母を選定していき

ました。食科研では、まず100ミリリットルの少量で試験醸造を開始。そこからスケールアップを繰り返し、最終的には15リットルのタンクで試作品のビールを完成させました。最初に飲んだ時から想像以上においしく、これならいけそうだという手応えを感じました。すっきりとした

飲みやすい口当たりで、清酒用の酵母ならではのフルーティな香りが特長です。商品化にあたっては、岐阜市内にある岐阜麦酒醸造さんに生産を依頼し、関市で収穫されたユズの皮を使用することで優しい香りがプラスされています。

こうして出来上がった岐阜大学エール「多望之春-各務」は、応用生物科学部創立100周年記念祝賀会で披露されました。出席者の方からの評判もよく、「予想以上でした」といった声がたくさん寄せられました。

今後は岐大酵母をもっと幅広く活用してもらうことで、岐阜県内の事業者さんのお役に立つことができると考えています。全国的にクラフトビールがブームとなるなかで、「岐阜県は野生酵母でつくった個性的なビールが多いよね」と注目されるようになれば面白いと思っています。将来的には、岐阜県がクラフトビールのメッカとして世界から注目を集めるようになるかもしれない。岐大酵母を使った個性豊かなビールが県内各地でつくられ、国内外から訪れた愛好家の皆さんがブルワリー巡りを楽しむ。そんな未来を描くことができたらすてきだなと思います。

クラフトビール醸造の裏側



伊奈波神社近くの醸造所でオリジナルのクラフトビールを製造し、併設するビアバー「Tap Room YOROCA」で販売しています。岐阜県食品科学研究所さんから声を掛けていただき、岐阜大学エールの醸造を手掛けることになりましたが、清酒酵母を使った醸造は初めてでしたので、貴重な経験とな

りました。ポイントは、清酒酵母「GY115株」のフルーティな風味を生かすため、副原料にかみのほゆずを用いたこと。飲みやすく風味が良いと反応は上々ですね。製造ロットごとにアプリでデータをとりながら日々改良を加えていますので、ぜひ一度飲んでいただけたらうれしいです。



ぜひ味わってください

岐阜麦酒醸造 代表 平塚 悟 さん



岐阜大学エールのラベルデザイン秘話



以前デザインした、岐阜大酒「多望の春 岐山/曲阜」のラベル候補の落選案を中川先生が気に入ってくださり、フルーティな「ゆず」の配色（緑色と黄色の組み合わせ）に変更して復活させました。「多望之春」の文字は中国東晋代に建てられた墓碑から抽出し、「各務」のロゴはさらに古い篆書をもとにデザインしています。

岐阜大学教育学部 山本政幸 教授



岐阜県食品科学研究所 × 岐阜大学

酒造りを実践的に学ぶ 清酒醸造実習

令和元年に「清酒醸造実習」を開講した岐阜県食品科学研究所と岐阜大学。その目的や手応えについて担当者にインタビューしました。



清酒醸造実習とは？

毎年10月から12月にかけて、ほぼ毎日行われる実習を通じて集中的に「酒造り」について学んでいくプログラムです。原材料である酒米から日本酒をつくり、最終的に瓶詰めをして製品として完成させるところまで、ひと通りの製造工程を全て体験してもらうのがコンセプト。多彩な実習を通じて、学部で普段学んでいる発酵や微生物などの知識が、どのように現場で生かされているのかを理解できます。基本的な流れを学んだ後は、学生が自ら判断して発酵を管理し、毎日のように味を見ながらおいしい日本酒へと仕上げていきます。

岐阜県食品科学研究所で 酒造りの全工程を実体験

岐阜大学では、平成31年にキャンパス内に岐阜県食品科学研究所が移転することに伴い、岐阜県と一緒に学生を育成するプログラムを立ち上げられないかと考え、令和5年10月から「地域食品産業実習」という名称の授業を始めることを決めました。ただ、単位に認定される授業を始めるにはさまざまな手続きが必要です。せっかく研究所が移転してきたにもかかわらず、しばらくは授業を行うことができないのであれば、単位を認定することはできないものの、岐阜県と連携して学生を育てる実習が何かできないかと考え、岐阜県次世代企業技術者育成事業の一環として「清酒醸造実習」を行うことを決めました。

令和元年から始まった清酒醸造実習は今年で5回目となりました。受け入れられる人数にはどうしても限りがあるため、最大10名程度という定員を設けています。応用生物科学部応用生命科学課程の3年生を対象に募集を行っています

が、毎年のように定員を超える応募があり、実際に実習を受けた学生たちからも非常に好評です。

単位が取得できないにもかかわらず、主体的に学びたいと集まってきた学生ばかりですから、10月～12月にかけて毎日のように行われる実習にも意欲的に参加してくれています。なかには、実家がみそ造りを行っている醸造メーカーで、「基本的な知識を身に付けたい」と熱心に学んでくれている学生もいたりします。将来、酒造メーカーにでも就職しない限り、おそらく酒造りに関わる機会は一生に一度もないでしょう。そんな貴重な体験がキャンパス内でできるという点もこの実習を受ける大きな魅力の一つだと思います。

酒造りの面白さに目覚め 日本酒業界を志す学生も

酒造りは「職人の勤でつくるもの」という印象を持っている人も多いかもしれません。実際には、緻密なデータ管理がなされ、安定した品質を保つためにさまざまな技

術が用いられています。実習でも毎日、成分分析を行い、酒蔵と同様に発酵を管理します。データを基に発酵を制御し、目標とする品質の日本酒をつくる。そんな日本酒造りの面白さを感じてもらえます。また、発酵が進むにつれて味が変化し、徐々に日本酒になっていく様子を官能的に体感できるのもこの実習の特色です。酒造りを通じて、実践的な醸造について学びを深めていける良い機会だと思います。また、食品づくりに欠かせない官能評価に取り組む機会も設けており、食品業界で活躍するうえで生かせるさまざまな知識を身に付けることができます。

この清酒醸造実習で酒造りの面白さに目覚め、実際に日本酒業界を志す学生も登場し、企業の面接で「清酒醸造実習を受けました」と話したところ、最終的に大手酒造メーカーから内定を獲得できたという学生も出てきています。今後も若い世代の人たちに日本酒の魅力を伝え、醸造に興味を持ってもらう契機の一つとして継続していければと思います。

私が学生の頃にこの実習があったら良かった(笑)。学生がうらやましいです。

意識の高い学生が参加してくれて、私たち職員も大いに刺激を受けました。

岐阜県酒造組合連合会の協力もあり、県内の酒蔵を見学することもあります。



岐阜大学応用生物科学部
矢部 富雄 教授

岐阜県食品科学研究所
川部 美千代 さん

岐阜県食品科学研究所
澤井 美伯 さん

言語学的
酒学

ワインテイスティングにおける 日本語表現

ソムリエなどがワインの味や香りを伝える際の独特な表現に着目し、言語学的観点から研究する吉成祐子教授に話を伺いました。



専門誌をきっかけに ワインの味の表現を調査

私の専門は言語学です。中でも「認知言語学」という、人がどのように事態を把握し、言語化するのかに注目した研究を行っています。ワインテイスティングでの表現に着目したのは、もともとワインが好きで、ワインの専門誌『Real Wine Guide』を購読していたことがきっかけです。雑誌に記載されていた「ピロードのような渋み」「清涼感漂う香り」「優しい味が口中に広がる」といった独特な言い回しが面白いと興味を持ちました。味覚や嗅覚といった、感覚を表す各固有の形容詞の数はそもそも多くはないので、他の感覚から表現が転用されることや、比喩的な表現が用いられることについては、さまざまな言語で多くの研究があります。しかし、ソムリエなどがワインの味わいを多彩な言葉で表現することが知られているものの、ワインテイスティングという場面に特化した言語表現を分析したものは、あまりありません。そこで、何が特徴的なのか、なぜ

特有の表現が用いられるのかを明らかにしようと研究を始めました。

ワインの特徴や感想を記録したテイスティングノートでは、ワインの味や香りに関わる成分である酸やタンニンなどが、ワインにどれほど含まれているのか、どのように味や香りに影響を与えているのかが記されます。研究ではこの点に注目し、ワイン雑誌から無作為に抜粋した1,010例のコメントより、「酸・ミネラル・タンニン」の語を含む表現を抽出し、分析しました。また比較対象として、お茶やコーヒー、果物などの他の飲食物において酸・ミネラル・タンニンがどのように記されているのかも、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(1億430万語のデータがデータベース化された言語資料)を用いて調査しました。

読み手にワインの風味を 想像させる表現が特徴

2種類のデータを比較することで、ワインテイスティングにおける表現の特徴が明らかになりました。

一般的な飲食物については、「ミネラルが豊富」「大量のタンニンが含まれる」「力強い酸」など、成分の量の多さや強さといった、事実に基づく客観的な情報が述べられていました。一方、ワインテイスティングノートでは「美しいミネラル」「キュートな酸」といった、視覚を表す形容詞を転用した主観的な表現が多く見られました。また、「酸が(ワインに)立体感を与える」「シュッと引き締まったタンニン」のように、ワインを生きているものように捉えた表現も用いられていました。見えるはずのない成分を視覚的に形容したり、擬人化したりする表現は、読み手にワインの風味を想像させることになります。これがワインテイスティングの表現の特徴だと考えられます。

普段、なんとなく「おいしい」の一言で片づけてしまいがちですが、どのようにおいしいのかを少し突き詰めてみると、より魅力的な表現が思い浮かぶはずで、言葉に注目しながらワインを嗜んでもらえれば、きっとこれまで以上に豊かな時間を楽しんでいただけたと思います。

ワインテイスティングノートの一例

とてもキレイなローズピンクの色合い。香りにはロゼらしい灰色香があり、飲み心地はふっくらと柔らかい。チェリー系の赤果実が優しく漂う味わいで、味つきは弱めだけどきっちり美味しくまとまっている。

引用: Real Wine Guide (リアルワインガイド) 第78号

岐阜大学日本語・
日本文化教育センター
吉成 祐子 教授



酒を醸す卒業生

合資会社 山田商店 専務
2011年地域科学部卒業 山田 一光 さん

伝統的酒造りの魅力を国内外に発信する6代目の山田一光さん。地域科学部での学びや仕事について話を伺いました。

Q1

現在の仕事について 教えてください。

小規模の酒蔵なので酒造りから営業、広報まであらゆる業務を行っています。その他、地元農家さんと連携して、休耕田を活用した酒米作りなどに取り組んでいます。また令和2年には応用生物科学部から依頼を受けて、岐阜大学創立70周年を記念した、岐阜大酒の醸造を担当させていただきました。卒業後も母校と関わってうれしいです。

Q2

蔵元やまだに 入社した経緯を 教えてください。

卒業後は異業種に勤めていたのですが、新しいことに挑戦したいと転職を考えました。その時に長い歴史の中で酒造りを続けてきた家業を思い返して、自分もこれを一生の仕事にしようと実家に戻ることを決意しました。酒造りに関して無知だったので、三重県にある酒造の蔵人のもとで2年修業し、その後蔵元やまだに入社しました。

Q3

学生時代はどんなことを 学びましたか？

高校生の頃はやりたいことが定まっていなかったですが、地域活動が身近にあったことや、幅広いジャンルを学べるということもあり、文理融合型の地域科学部に入ったんです。そこでは多角的な視点が身に付いたと思います。専攻は労働社会学で、伊原亮司准教授の研究室に所属していました。夜遅くまで仲間と研究したり、遊んだりした日々が思い出深いです。

Q4

後輩へのメッセージを お願いします。

大学の仲間と過ごしたり、講義で知識を広げたりすることは今しかできない経験なので、有意義な時間を過ごしてほしいです。また自由に挑戦でき失敗が許されるのも学生の特権です。自分で何かをやってみたり、学外の人と交流したり、さまざまなことにチャレンジしてみてください。



蔵元やまだ(合資会社 山田商店)

岐阜県加茂郡八百津町八百津3888-2



明治元年(1868)創業の小さな酒蔵。清らかな水と良質な酒米をふんだんに使用し、昔ながらの製法で酒を醸し続けています。



フランスで開催された日本酒コンクール「Kura Master 2023」において、高級酒米「山田錦」の特性を最大限に引き出した純米大吟醸「玉柏」が、最高賞である「プレジデント賞」を受賞しました。



大きな成功の裏には 膨大な数の失敗がある。 失敗より挑戦しないことを 恐れてほしい。

アステラス製薬株式会社 元代表取締役会長
1964年 農学部獣医学科卒業

竹中 登一 さん

先輩の声 volume 02

夏休みを本巢の祖父宅で過ごし、 そこで生物が好きになった

生まれは愛知県刈谷市ですが、戦後の食糧難時代だったこともあり、小さい頃は夏休みに本巢郡糸貫村にある祖父の家で過ごしました。中学生の頃に名和昆虫博物館で昆虫採集やギフチョウの飼育を教わって生物学に興味を持ち、高校では生物クラブに所属。物理や化学は苦手でしたが、生物は面白かったので、大学では理学部の基礎生物系を志望していました。

しかし、トヨタ系の企業に勤めていた父は、私の将来を案じて就職先の多い工学部に進めと大反対。悩んでいると、農協にいた叔父が「獣医学科ならお前が好きな分野に近い応用生物学が学べるし、獣医師の資格を取れば就職も安泰だ」と間に入って父を説得してくれ、岐阜大学農学部獣医学科に進学することになったのです。

仲間と野球に打ち込むなかで チームワークの本質に触れる

入学した昭和35年は安保闘争の真ただ中。全国でデモが行われており、長良校舎で行われていた教養の授業もほとんど休講でした。途方に暮れていると、グラウンドで準硬式野球部に勧誘され、中学生の頃に野球に打ち込んでいたこともあって入部。



在学時

野球のポジションはピッチャー。大学3年時に、鈿路市営球場で行われた高松宮杯東日本大学準硬式選手権大会に出場。



山之内製薬入社時の写真。研究職として毎日創業に打ち込んだ。



会社員時代



ハルナール（泌尿器薬）を創業した功績が認められ、平成12年に紫綬褒章を受章。

指導者もいないため、自分たちで工夫して練習したり、お互いにアドバイスをしたりするなかで、チームワークの本質を自然と学ぶことができました。

また、当時の獣医学科は4年制のため、専門教育の講義や実習でとても忙しかったですが、基礎研究がとても面白く充実していました。そして、4年次に葛野先生と岡田先生の生理・薬理学研究室に所属。ニワトリの平滑筋における交感神経受容体の研究を通して薬理学に興味を持ち、進路は製薬会社を考えるように。先輩が山之内製薬株式会社の研究所で活躍されていた縁もあり、葛野先生の推薦で就職が決まりました。

自由闊達な雰囲気なかで 個性を発揮し、創業研究に邁進

昭和36年に国民皆保険制度が始まり、医薬品の売り上げが爆発的に伸びた影響で、製薬業界は急成長。私が就職した頃の山之内製薬は業界8位の中型製薬企業でしたが、将来への投資として大きな研究所を新設し、全国から大量に学生を採用。私が配属された新しい研究所は、半数が同期入社だったこともあり、自由闊達な雰囲気の中で伸び伸びと仕事ができる恵まれた環境でした。そして、入社早々に高血圧治療薬の開発プロジェクトがスタート。大学で循環器と平滑筋

の実験をしていた経験を買われ、私に声が掛かりました。それから3年間、毎日実験を繰り返した結果、血圧を下げ、血流を増やす化合物の生成に成功。その後も、排尿障害治療薬などを創業し、会社の発展に貢献した実績が認められ、平成5年に取締役研究本部長、平成12年に社長に就任しました。

経営者となって役に立ったのは、準硬式野球部で学んだチームワーク。あの頃のように、各自が創意工夫し、活発な意見を交わすチームをつくるのがリーダーシップと考え、環境を整えました。その後、平成17年に山之内製薬は藤沢薬品工業と合併し、アステラス製薬となる際も、両社の強みを生かして、シナジーを生むことを第一に考えて交渉を進めました。

学生時代の失敗の数が、 社会に出てからの成功の数になる

これからは理系文系問わず、AIを含めたITの知識と英語力が必須。私は英語の論文がなかなか読めず苦労しましたが、社会人になってから週3回英語学校に通い、ビジネスの現場で実践するなかで、海外の経営者とも英語で交渉できるようになりました。ぜひ、学生のうちにビジネスレベルの英語力を身に付け、将来の選択肢を広げてほしいです。

そして、講義や実習で知識を得るだけでなく、強い好奇心と鋭い観察力を養うことが肝心。創造性は豊かな感性からしか生まれません。また、部活動やサークルなどでチームワークを身に付け、心を通わせられる本当の仲間ができることより良いと思います。青春をともに過ごした準硬式野球部のチームメートは、今でも定期的に会う一生の友になりました。

昨今の学生は大企業志向が強いと聞きますが、規模よりも、創造性を尊重し、挑戦が許容される企業風土を重視すべきだと思います。なぜなら、若いうちにすべきことは失敗だからです。創業の成功確率が3万分の1といわれるように、私は数えきれないほど失敗を重ねています。経営者になってから大きな失敗をして会社の株価が大幅に下がったこともありましたが、失敗から学び、自らを改めることが成長につながり、成功の確率を高めますし、早く失敗すれば、それだけ早く返せる。スピード感を持って挑戦を続けることが成功の秘訣だと、多くの失敗を通して私はやっと学んだのです。

PROFILE
愛知県刈谷市出身。岐阜大学農学部獣医学科を卒業後、山之内製薬株式会社（現：アステラス製薬株式会社）へ入社。高血圧治療薬などの創業に成功した実績やリーダーシップが評価され、要職を歴任。同社退職後は岐阜大学高等研究院One Medicineトランスレーショナル・リサーチ・センターの顧問に就任し、創業経験を伝えるなど、岐阜県の生命科学産業の発展に力を注ぐ。

外国にルーツを持つ児童が 授業に必要な日本語を遊びながら学べる、 「いみあわせかあど」を開発。

先生が授業で話す言葉が分からないまま学校で1日を過ごす——想像しただけでつらいですが、外国にルーツを持つ児童のなかには、そのような子が大勢います。こうした日本語指導を必要とする子どもたちの授業参加を後押しするため、授業でよく使われる15種類の動詞を、遊びながら楽しく学べるカードゲーム教材を開発しました。



岐阜大学教育学部 学校教育講座
今井 亜湖 教授

教師が話す言葉を理解するための
カード型教材を制作。

岐阜県は、外国にルーツを持ち日本語指導を必要とする児童・生徒が多くいる地域です。教育実習を終えたゼミ生との会話から、そのような子どもが授業に参加するための支援の必要性を知りました。さっそく同じ問題意識を持つ教育学部の教員で研究グループを作り調査を開始。実態を調査すると、学校生活や日常生活に必要な日本語を学ぶ教

材はあっても、授業の理解や授業に参加しやすくするための教材は十分ではない現状が見えてきました。

私が専門とする教育学では、「教育・学習活動をより良くする方法」を、現状を調査したうえで検討し、それを実践と評価・分析を繰り返して完成させていきます。そのため、教育学研究として日本語指導が必要な子どもが授業に参加するための支援ができるのではないかと考えました。

まず取り組んだのは、授業を行う

先生となる教育学部の学生向けに日本語指導の必要な児童・生徒のための教育プログラムを開発しました。同時期に、小学校の先生でもある大学院生の福島貴子さんが修士研究として、日本語指導が必要な児童のための教材開発に着手しました。教師が話していることを推測できれば授業に参加しやすくなるという仮説をもとに、どんな教材にするかを、調査を繰り返しながら考えていきました。そして、日本語指導が必要な児童の多くは、親が学習



- ◎「いみあわせかあど」で学ぶ言葉は、一つの「読み」に対して二つの「意味」を持つ15個の動詞、計60枚
- ◎プレイ人数:1人〜 ◎対象年齢:小学校低学年〜
- ◎難易度のレベルを★印の数で表示



開発者のコメント

福島 貴子さん

私が校長を務めていた小学校に、日本語が分からないために授業に参加できない子どもがいました。クラスに「いるだけ」になりがち子どもに少しでも友達と学ぶ楽しさを感じてほしい。そんな思いから、今井先生のご指導の下で学習支援教材開発の方途について学び、教材を開発しました。

をバックアップできる環境にないため、一人でも手軽に使えるカードゲーム式の教材を開発することにしました。教材で学ぶ言葉は「動詞」に着目しました。「窓を開ける」「席を空ける」など、同じ音で異なる意味を持ち、授業で使われる動詞をチョイス。楽しく学べるよう、トランプの神経衰弱のように、同じ意味の動詞が使われているカードを見つける「いみあわせ」にたどり着きました。

こうして生まれた「いみあわせかあど」のプロトタイプ評価を依頼した市の教育委員会を訪れると、「こんな教材を待っていた!」と快諾。対象となる児童に2週間使ってもらった結果、児童の日本語の理解度がわずかながら上昇。終了後のアンケートでも高評価をいただき、使い込まれてボロボロになったカードを見て、ニーズを確信しました。

その後、クラウドファンディングで資金を募り、協力校にはお礼として完成品を配布。さらに教材会社からの申し出を受け、製品化が実現しました。今後は福島さんが中心となり、「いみあわせかあど」の第2弾の開発を進める予定です。

学ぶ楽しさを、子どもたちや
教員となる学生たちに伝えたい!



私は技術の教員を目指して岐阜大学に入学し、折りたたみ机の設計と製作、歯車の設計などを夢中になって行いました。もっと学びを深めたいと修士課程へ進み、旅先のエジプトで出会った現地国立大学の教員との議論などを通じて、「学校と大学の懸け橋となる仕事に就きたい」と研究者の道へ。岐阜大学赴任後は現職教師向けのインターネット型大学院の立ち上げ(現代GP)に携わり、終了後は複数の教科で使用できる教材の開発や学習環境の構築に取り組んでいます。近年は、岐阜市と本巣市の境にある、船来山古墳群をテーマとするふるさと学習の教材を開発。鳥瞰図を印刷したクリアファイルに、古墳がプロットされたワークシートを挟む簡単な仕掛けの教材です。展示パネルをただ見るのとは違

い、子どもたち自身でワークシートを挟むという操作をすることで、「こんなに古墳があるんだ!」と実感できるツールになっています。

「学びの面白さをたくさんの人に味わってもらいたい」が私のモットーです。学ぶことは、ゲームより何よりも面白い。そのことをどう伝えるか。一つの答えが「いみあわせかあど」。子どもたちが「この言葉知ってる!」と、その先の学びを楽しむきっかけになればと思っています。また、教育学部の学生には、自分自身が学びの面白さを知り、子どもたちに伝えられる人になってほしいですね。教育学部も教育現場も多彩な教科の専門家が集まっているため、コラボレーションすることで、一人ではできないことも実現できる可能性に満ちた場です。その魅力を学生に伝えられるよう、私自身が研究をもっと楽しみたいと思います。



船来山古墳群スケルトン教材

3Dコンクリートプリンタを活用した部材の開発や 手軽にできる補修「橋梁DIY」の普及。 インフラの高機能・長寿命化技術を世の中へ。

身の周りで広く使われているコンクリート。私は、コンクリートについて新たな機能を持つ材料や構造を研究する一方で、3Dコンクリートプリンタによる成形技術の開発や誰にでもできる小規模な橋梁の予防対策の普及といったインフラの高機能化と長寿命化をテーマに取り組んでいます。



岐阜大学工学部 社会基盤工学科
先端材料・構造研究室
國枝 稔 教授

現場の課題を3Dコンクリート プリンティングが解決。

目の前の風景からコンクリート構造物がなくなると、大部分の人工物が消えてしまいます。私は父が土木の仕事に携わっていたこともあり、社会でたくさん使われているコンクリートについて興味を持つようになりました。岐阜大学では自分で自由に考えて導き出した実験プロセスや結果を認めてくださ

る先生方に出会い、研究が面白く研究者の道へ進みました。

現在はセメント・コンクリート材料をターゲットに、「インフラの長寿命化や高機能化に資する新材料や新構造の開発」をテーマに研究しています。今あるコンクリート材料や構造物をいかに長持ちさせるか。また、脱炭素などの社会ニーズを踏まえ、より良いインフラをどのように造っていくか。そのような課題に、繊維補強コンクリートやコンク

リートのひび割れ自己治癒といった研究で応えようとしています。

いくつかある研究テーマのうち注目しているのが、3Dコンクリートプリンティング技術です。ドイツの研究仲間との会話で興味を持ち、少子高齢化が進む日本の技能者不足解消につながると考え、開発に着手しました。型枠がなくても自立するコンクリートの材料やマシンの制御など、複数の技術を融合させシステムの最適化を図ってい

ます。2種類の方式に取り組んでおり、一つは産業用ロボットを使ってコンクリートを積層するものです。主に工場での製品製造に役立つ技術で、岐阜・愛知・三重県のコンクリート製品メーカー5社との共同施設「3Dプリンティングスタジオ」を学内に開設し、研究を進めています。もう一つは、バックホーなどICT建設機械の先端にノズルを取り付けてプログラムで動かしコンクリートを吹き付ける「On-Site Shot Printer」の実用化。護岸などの災害復旧工事では、ドローンで測量し無人の建設機械で土を盛る作業を行いますが、いざコンクリートを現地で造るとなると型枠や鉄筋の設置だけで数日かかります。型枠を必要としない3Dコンクリートプリンタが実用化されれば1日で構築できるようになります。建設用の3Dプリンタは高額なため地方の企業が購入するにはハードルが高いです。その点、既存の建機に搭載できるプリンティング技術なら、小さな工務店でもリースすることで導入が可能になります。まだまだ課題はありますが、今後の災害復旧スピードが格段に高まると期待できます。

一般の人にも、もっとインフラに関心を持ってほしい。



もう一つ注目しているのが、インフラの長寿命化を目的とした「橋梁DIY」です。橋梁には5年ごとの点検義務があり、小規模な橋のほとんどは市町村が管理しています。ところが、補修費用が不足しているうえ、技術職員も不足するケースが増加。そこで日本コンクリート工学会中部支部の活動の一環で、水切りを設置し、劣化の進行をあらかじめ抑制する「予防保全」を管理者が自ら行えるよう、ガイドラインを作成しました。

ガイドラインで定めた橋梁DIYのポイントは三つ。第一に「水を制御する」。コンクリートが傷み鉄筋が錆びる大きな原因は水です。水が橋梁の底面へ伝った跡を点検で発見したら、樹脂製の「水切り」を接着剤で取り付け、水が下へ落ちるようにしま

す。第二に、水切りは樹脂製のため「消耗品として管理する」こと。そして第三に「水切りが落下して困る場所には使わない」。大規模な橋は専門家に、DIYは小さな橋だけにし、無理のない範囲で施工することです。

現在、各務原市の協力で、市内の長さ5m未満の橋のうち、約半数の256橋を対象に、ガイドラインに基づく点検と対策の実証試験を行っています。山県市や大野町でも実施が決まりました。市町村の管理者が自分で補修することで、インフラへの責任感が強まることも期待しています。

研究の種は現場にしか落ちていません。幸い大学の研究者は構造物の安全性などへの見解を求められ、現場へ赴く機会があります。今後もそうした機会に見つけた種のなかから、100年メンテナンスフリーのコンクリートを開発するなど、大学にしかできないとがった研究に挑む一方で、社会との結びつきを大切に環境面などの課題にも応えていきたいです。私自身もチャレンジしていきますが、学生にもチャレンジしてほしいですね。失敗してこそ次につながるもの。そんな経験が思う存分できるのは、学生のうちだけですから。

3Dコンクリートプリンティング技術によるコンクリートの積層



「産業用ロボット型3Dプリンタ」
独自開発のセメント材料を使用して柱の型枠を積層



「On-Site Shot Printer」
ICTバックホーによるセメント材料の吹付け

職員が自ら補修する橋梁DIY



「市の職員による水切りの貼付け」
橋梁端からの水かがり跡がない定期的に点検し、必要に応じて水切りを交換。大規模な橋は専門業者に任せ、無理のない範囲で市の職員が補修し、維持費を抑える。

「3人で力を結集して開発した VR作品が国際大会で大賞を受賞。 この経験を今後の糧にしたい。」

2023年4月12日(水)～16日(日)にフランスで開催されたVR(仮想現実)とAR(拡張現実)の国際大会「Laval Virtual 2023」。大学や民間の研究プロジェクトを対象としたResearch部門のコンペティションにおいて、岐阜大学大学院自然科学技術研究科1年の3名が開発したVR作品「MEcholocation」が見事大賞を受賞。本作の誕生の経緯や、開発のこだわりについて伺いました。



岐阜大学大学院 自然科学技術研究科1年
小木曾 直輝 さん(右)
阪井 啓紀 さん(中央)
酒井 康希 さん(左)

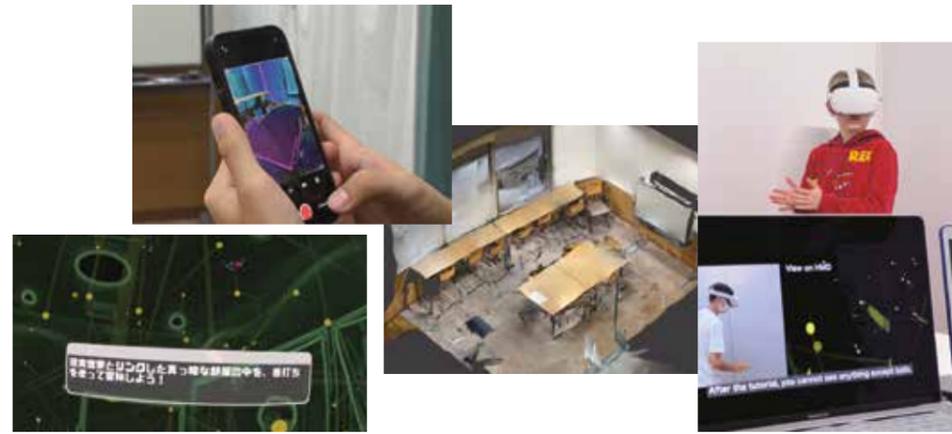
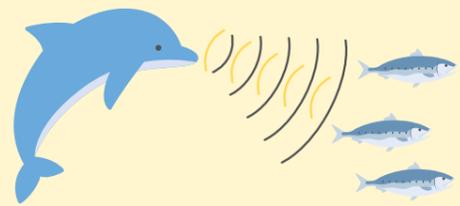
VR作品 MEcholocation

コウモリやイルカが超音波の反響を使って、自身の位置を把握する“エコロケーション”に着目して制作された作品。VRヘッドセットを着用して体験者が舌打ち音を発すると、暗闇の中で音の跳ね返りがボールとして可視化される。反射の大きさや距離を見ることによって、擬似的にエコロケーションを体験することができる。視覚障がいを持つ人が、舌打ちによるクリック音で、周囲の状況を把握しながら生活している実例を基に開発された。



エコロケーションとは

動物が音や超音波を発生し、周囲の物体から跳ね返った反響音を聴くことによって、対象物までの距離・方向・大きさ・形などを認識すること。



制作にはスマートフォンとPC、VRヘッドセットを使用。エコロケーションをよりリアルに感じてもらうために、コントローラ操作ではなく、自身の足で移動して作品を体験する。

「MEcholocation」の制作を通して、 チームで協力してゲームを作る楽しさを得ました。

きっかけは、講義で制作した作品。教授の後押しでVR大会に出展。

「MEcholocation」制作のきっかけは「情報工学実験Ⅲ」という3年生後期に開講された木島竜吾准教授の講義です。そこではVRを使って、今までにない新しい作品を創造するという課題が出され、1カ月間アイデアを練りました。音だけを頼りに暗闇からの脱出を目指す2Dのスマホゲームから着想を得て、それをVRに発展させたら面白いのではないかと思いついたのが「MEcholocation」です。最後の講義で作品を発表した際、多くの学生や先生から高評価をいただきました。その後、木島准教授の後押しもあり、昨年11月、日本のVR大会「IVRC 2022」に参加することに。大会に向けて作品をブラッシュアップしていく中で、目の不自由を補うために舌打ちの反響音で生活する人がいることを知りました。そこで“見えなくても歩ける、触れられる”体験ができたらと思い、「舌打ち音の可視

化によるエコロケーションの疑似体験」というコンセプトに練り上げ、作品を提出しました。結果、入賞を果たし、大会運営の方から「君たちの作品は面白いからぜひLaval Virtualにも出展してほしい」と声を掛けていただき、思いきって大会に出展することを決めました。

研究の知見を基にブラッシュアップ。切磋琢磨してつかんだ世界一。

「MEcholocation」を作るにあたり、3人で作業を分担しました。ボールの数や速さ、障害物の数など細かな機能の実装は、VRの研究室に所属しゲーム開発の経験があった小木曾が担当。また、自動運転で使われる光センサー技術を作品に展開するアイデアは、研究室で画像処理を学んでいる阪井の案を採用し、プレゼン資料や動画制作、チームのファシリテーションは酒井が担当。得意分野が異なることから、それぞれの意見が衝突することもありましたが、そんな時は互いに納得がいくまで話し合いました。制作と研究の両立は大変でしたが、この3人だったからこそ、より良い作品を作り上げられたと思いますし、チームで協力してゲームを作る楽しさを得ることができました。

「Laval Virtual」では、一般の来場者や他国の出展者に、僕たちの作品を体験していただきました。相手の理解度に合わせて、慣れない英語で分かりやすく伝えることの難しさを感じましたが、直接反応を見ることができ感動しました。結果はResearch部門で大賞を受賞。まさか賞をいただけるとは夢にも思わず、名前を呼ばれた時は驚きとうれしさでいっぱいでした。

今回の経験は僕たちにとって人生の糧になる大事な成功体験になりました。自分で限界を決めずにとりあえずやってみようという精神で挑戦し続ければ、世界の大舞台にも立てることを身をもって学びました。今後は各々の分野に進むと思いますが、これからも自分たちが楽しいと思ったことに全力投球していきたいです。

今回の経験は僕たちにとって人生の糧になる大事な成功体験になりました。自分で限界を決めずにとりあえずやってみようという精神で挑戦し続ければ、世界の大舞台にも立てることを身をもって学びました。今後は各々の分野に進むと思いますが、これからも自分たちが楽しいと思ったことに全力投球していきたいです。

Laval Virtual

フランス西部・ラヴァル市で毎年開催されるヨーロッパ最大のVR・ARの大会。世界各国の研究者やアーティスト、業界関係者などによる革新的な作品が集結する。大会のコンテンツの一つであるコンペティション「ReVolution」では、コンピュータグラフィックス、VR、AR、ゲームなど幅広い学術分野から、没入型テクノロジーを使用した約50の前衛的なプロジェクトが発表された。VRやARを「研究」の観点から取り上げたResearch部門の全15ブースの中から、「MEcholocation」が大賞を受賞した。



岐阜大学の 学生が各種表彰を 受けました

令和5年4月16日(日)

自然科学技術研究科の学生が
VR/ARの国際大会で大賞を受賞



令和5年6月17日(土)

学生チームが「Tongaliビジネスプラン
コンテスト2023」で優秀賞(2位)等を受賞



令和5年9月2日(土)

岐阜大学フォーミュレーシングが「学生フォーミュラ
日本大会2023」において総合3位を獲得



令和5年9月9日(土)

学生チームが「愛知県大学対抗ハッカソン
"HackAichi+2023"」で最優秀賞等を受賞



令和5年9月14日(木)

本学教育学研究科を修了した赤松諒一さんが日本陸上競技
選手権大会で初優勝および世界陸上競技選手権大会で8位入賞



糖鎖生命コア研究所 岐阜研究棟を 開所しました

令和5年5月15日(月)

東海国立大学機構は、文部科学省「大規模学術フロンティア促進事業」として「ヒューマングライコムプロジェクト(英語名:Human Glycome Atlas Project:HGA)」(代表:門松健治 東海国立大学機構・理事)を推進しており、糖鎖生命コア研究所 岐阜研究棟はプロジェクトの中核拠点となるものです。7月19日には永岡桂子文部科学大臣が現地を視察し、糖鎖研究に携わる学生との交流会などが行われました。



本学が「東海情報通信懇談会会長 表彰」を受けました

令和5年6月1日(木)

総務省東海総合通信局と東海情報通信懇談会が実施する令和5年度「電波の日・情報通信月間」記念式典において、本学が「東海情報通信懇談会会長表彰」を受賞。岐阜大学医学部附属病院腫瘍外科と岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)との共同研究である、医師による手術映像と同時に教員が字幕解説する授業について、5Gを活用して高精細な遠隔授業を可能にしたことが高く評価されました。



創立74周年記念日行事を 開催しました

令和5年6月1日(木)

講堂にて本学の創立記念日行事を開催。式典では、中京大学教養教育研究院の風間教授による講演「DEIB宣言～岐阜大学の今とこれから～」のほか、工学部リム教授、応用生物科学部山根准教授、地域科学部在学学生加藤さんおよび教育学部卒業生松原さんによる「多様性・公正性・包摂性・帰属感を考える」をテーマに自身の経験等を踏まえたリレートーク&フリーディスカッションなどが行われました。



岐阜大学農学部・応用生物科学部 創立100周年記念行事を 開催しました

令和5年6月3日(土)

「岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念行事」を開催し、記念講演会、記念植樹式、最古の日本製トラクター復活デモンストレーション、創立100周年記念式典及び創立100周年記念祝賀会を実施。祝賀会では、応用生物科学部と岐阜県食品科学研究所のコラボレーションによるクラフトビール「多望之春-各務」のお披露目があり、参加者に振舞われました。



「ぎふ理系女子はばたき 応援プロジェクト」大学見学会を 開催しました

令和5年6月15日(木)

本学男女共同参画推進室は岐阜市教育委員会の探究学習事業「ぎふMIRAI's」と連携し、「ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクト」の取り組みの一環として大学見学会を開催し、岐阜市立長良中学校2年生101名が参加しました。本プロジェクトでは、岐阜県内の女子中高生や保護者、教員に向けてさまざまな取り組みを企画しています。取り組みの詳細についてはぎふ理系女子はばたき応援プロジェクトHP (<https://www1.gifu-u.ac.jp/~habataki/>)をご覧ください。



「酒と食の文化の実践的理解」 シンポジウムを開催しました

令和5年7月8日(土)

本シンポジウムは、学生の「日本酒文化」を実践的に学ぶ機会の創出を目的とし、岐阜県酒造組合連合会と岐阜県食品科学研究所との共催にて平成25年度から開催しています。令和2年から3年間、コロナ禍の影響で残念ながら開催されませんでしたが、今回、4年ぶり8回目の開催となり、約150名が参加しました。



図書館1階アカデミック・コアの愛称が 「Sky ACADEMIC CORE」に 決まりました

令和5年10月1日(日)

本学は、業務系ビジネスシステムなどを手掛けるSky株式会社とのネーミングライツ(命名権)契約に基づき、図書館1階の学習スペース、アカデミック・コアの愛称を「Sky ACADEMIC CORE」に決定しました。ネーミングライツ制度を導入して以来初の契約となります。岐阜大学とSky株式会社はこの愛称が多くの学生に定着するよう努め、教育研究環境の一層の充実に取り組んでまいります。



国際月間特別シンポジウム「グローバル化は我々をどこに導くのか-ChatGPT時代を生き残れ! 国際化に必要な能力は本当に英語なのか?-」を開催しました

令和5年10月31日(火)

本学講堂にて、脳科学者の茂木健一郎氏、経営者の塩野誠氏、吉田和弘学長の3者による鼎談を開催。学内外から約280名が参加し、Global Lesson*でのリアルタイム配信では約100名が聴講しました。本学がインド工科大学グワハティ校やマレーシア国民大学と実施するジョイント・ディグリープログラムなどについて活発な議論が交わされたほか、3者より学生に熱いエールが送られました。

*岐阜大学グローバル推進機構が提供するオンライン学習プラットフォーム (<https://www.gu-glocal.com>)



安八町と連携に関する協定を 締結しました

令和5年10月31日(火)

本協定では、本学と安八町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。今後、本学と安八町は、人材育成及び公共交通、交流人口に関することを中心に連携を深め、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



第1回岐阜大学ホームカミングデー 2023を開催しました

令和5年11月3日(金・祝)

本学のファンやステークホルダーを対象に、相互の交流・連携を深め、持続可能な相互関係の構築及び相互支援に資する取り組みとして、大学全体としては初となるホームカミングデーを本学講堂にて実施。株式会社岐阜新聞社社主・代表取締役 杉山涼子氏による一般市民向けの特別講演のほか、OBや在校生による活動報告などが行われました。



岐阜大学基金にご支援をお願いします。

岐阜大学基金では、多くの皆様のご協力により、学生に対する奨学金や国際交流事業、特色ある研究活動への支援、地域社会への貢献事業、キャンパス整備など教育研究活動に活用させていただいております。

皆様におかれましては、岐阜大学基金の趣旨にご賛同いただき、継続的なご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

岐阜大学基金活動による学生支援「応援奨学生」からの声

- ・応援奨学金の給付を受けたことで、アルバイトを減らすことができました。研究に取り組む時間を増やすことができ、多くの学会にも参加することができました。この奨学金のおかげで、大学院での研究生活を有意義なものにできました。この奨学金の受給において、お世話になった全ての方々に心より感謝いたします。
- ・この度、応援奨学金の給付を受けたことにより、より学業に専念する環境を整えることができました。卒業後は、私も本事業に貢献したいと考えております。ご支援・ご協力いただきましたことに感謝申し上げます。



- ・ご寄付いただいた皆様、誠にありがとうございました。岐阜大学を卒業してからも卒業生としての自覚を持って生涯学習に励み、地域社会に貢献できるよう努めてまいります。

岐阜大学基金についてのお問い合わせ先

国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学Development Office (DO室)
〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1番1
TEL 058-293-3276 FAX 058-293-3279
E-mail kikin@t.gifu-u.ac.jp

ご寄附のお申し込みはこちら
<https://www.gifu-u.ac.jp/fund/>



ご寄附者芳名録

令和5年3月から令和5年9月末までにご寄附いただいた方で、掲載をご了承いただいた方を五十音順にご紹介させていただきます。また、10月以降にご寄附をいただきました方につきましては、次号にて掲載させていただきます。なお、本学役職員につきましては割愛とさせていただきます。

ご寄附をいただき、心よりお礼申し上げます。

秋田 幸子 様	井上 進 様	加藤 規康 様	杉本 恵 様	永田 百萌佳 様	藤代 勝 様	安田 竜二郎 様
浅井 千恵 様	岩田 和彦 様	金森 吉信 様	鈴木 敏弘 様	中村 悦子 様	舟橋 まゆみ 様	矢田 泰生 様
浅野 弘 様	岩田 哲夫 様	可児 光子 様	鈴木 朋 様	仁木 俊夫 様	古田 仁 様	柳江 愛 様
浅野 弘久 様	岩田 元 様	加納 宏 様	鈴木 安治郎 様	西田 弘育 様	古橋 直樹 様	山川 和俊 様
浅野 勝己 様	上田 元信 様	北畠 実 様	住田 光夫 様	西野 佳秀 様	細田 文一 様	山口 多朗 様
安達 誠二 様	上村 謙一郎 様	北村 裕美子 様	諏訪 伊三次 様	西本 昇平 様	堀尾 勝幸 様	山崎 裕子 様
新井 宗之 様	鷗飼 愛一郎 様	楠本 高裕 様	高木 庵志 様	野原 大輔 様	堀部 廉 様	山田 京子 様
安藤 達也 様	鷗野 善雄 様	國枝 正義 様	高須 信明 様	野村 務 様	牧野 守 様	山田 清 様
安藤 柁博 様	江崎 攝 様	栗山 佳苗 様	高瀬 浩二 様	橋本 晃 様	松田 典芳 様	山田 弘昭 様
池上 八郎 様	大河内 宣久 様	小出 竜男 様	武井 芳成 様	長谷川 誠 様	松平 智恵子 様	山中 實 様
伊佐地 誠 様	太田 正之 様	小坂 井博 様	服部 圭子 様	服部 利光 様	松原 豊 様	山本 典生 様
石川 範子 様	大野 聡 様	小林 房代 様	田中 茂 様	服部 真采 様	松本 俊明 様	山本 浩典 様
石川 広樹 様	大野 久和 様	小堀 景子 様	田中 伸次 様	服部 真采 様	松山 正宏 様	楊 睦正 様
石黒 大 様	大橋 和義 様	近藤 宣広 様	田中 治子 様	馬場 紀行 様	馬淵 静香 様	横井 肇 様
泉 忠宏 様	岡崎 正樹 様	坂井 田実 様	棚橋 忍 様	早崎 鉄也 様	水野 芳晴 様	吉川 利彦 様
市原 美里 様	奥村 理永 様	坂倉 健男 様	谷口 和視 様	林 貞子 様	溝口 徹 様	吉田 博史 様
伊藤 克己 様	小倉 志保 様	佐藤 安昭 様	塚本 吉宣 様	林 睦齊 様	三谷 省造 様	吉田 政直 様
伊藤 利夫 様	小澤 與宏 様	茂野 一彦 様	梶尾 義昭 様	日置 雅夫 様	宮口 博明 様	
伊藤 成彰 様	小田 啓介 様	柴山 弘 様	坪田 敏男 様	樋口 泰史 様	見山 政克 様	
伊藤 登 様	鹿島 近 様	柴山 知之 様	鶴丸 雅弘 様	平井 瑞子 様	有志 浩二 様	
伊藤 秀久 様	糟谷 天音 様	志水 秀行 様	長井 茂明 様	藤井 知真 様	本山 浩二 様	
伊藤 正憲 様	勝野 将志 様	菅沼 広茂 様	中嶋 洋 様	藤井 ゆかり 様	森川 力 様	
犬飼 裕一 様	嘉手納 努 様	杉浦 吉彦 様	永瀬 雅啓 様	藤井 裕美子 様	森下 宏子 様	
井上 健太郎 様	加藤 哲 様	杉下 総吉 様		藤川 真誓 様	森 久隆 様	

他95名様

法人・団体等

アビ株式会社	岐阜大学工業倶楽部中部支部	セラハヤックス株式会社	未来型太陽光発電システム研究センター
オリザ油化株式会社	一般財団法人 国際クラブ	全国大学生生活協同組合連合会	
岐阜県植物誌調査会	さとう写真館	名古屋教育学院	
岐阜大学各務同窓会石川県支部	シンエイ銅商株式会社	はやし内科クリニック	他2法人

日本の
バイオテクノロジーで、
世界を変える。

食品分野
新しい製品の開発に、
酵素でお手伝いします

メディカル分野

AMANO 天野エンザイム株式会社
www.amano-enzyme.co.jp

本社 愛知県名古屋市中区柳一丁目2番7号 電話: 052-211-3032
東京事務所 東京都港区芝公園一丁目2番8号 電話: 03-6452-8970
AMANO 芝公園ビル8階

酵素の世界にようこそ
<https://mienaimono.jp/>

《岐阜大学グッズが買えるオンラインショップ》

GS-SHOP

人気No.1
多望の春 岐山/岐阜
720ml 2本セット
3,960円(税込)

その他オリジナルグッズも販売

岐阜大学タオル エアーカーおる
ダイボーイ フェイスタオル

岐阜大学ハンカチ エアーカーおる
DEO なでしこ(今治製) 3枚セット

GS-SHOPは、岐阜大学の学生への支援や教育・研究の助成などを目的として設立された一般社団法人 誠仁会が運営しております。

※広告に関するお問い合わせは各企業・団体までお願い致します

岐阜大学2024カレンダーを作成しました!

この度、岐阜大学では、美しいキャンパス風景や大学の研究など、本学の魅力をお届けするための特別なカレンダーを作成しました。令和4年10月以降に岐阜大学基金へご寄附くださった方々に感謝の気持ちを込めて、本カレンダーをお届けいたします。どうぞ本学の魅力を存分にご堪能ください。



※「岐大のいぶき」では、企業・団体様からの広告を募集しております。

岐阜大学クラウドファンディングへご支援をお願い致します

岐阜大学では、教育研究活動等の更なる推進のため、クラウドファンディングを活用したプロジェクトを実施しています。本学の多様なプロジェクトへ、皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

募集中のプロジェクト

応用生物科学部生産環境科学課程 楠田 哲士 教授

ネコ科動物の未来を拓く！動物園との繁殖研究・妊娠検査で保全に繋げ

募集期間 令和5年11月29日(水)～
令和6年2月27日(火)

プロジェクトへのアクセスはこちらから
<https://readyfor.jp/projects/zooreplab-neko>

岐阜大学 ネコ科 レディーフォー

検索



● その他プロジェクトも公開中!

詳しくは、岐阜大学クラウドファンディング
WEBサイトをご覧ください。

本プロジェクトへのご寄附は、税制優遇が受けられます。

岐阜大学クラウドファンディングについてのお問い合わせ先

国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学研究支援課研究資金第一係
TEL : 058-293-2370 / E-mail : cfg@t.gifu-u.ac.jp

アンケートに答えて 岐阜大学オリジナルグッズを GET!!



今後のより良い誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。岐阜大学広報誌「岐大のいぶき No.46」に添付されたアンケートハガキでアンケートにご協力いただいた方の中から、**抽選で6名様**に学生がデザインを考案した「**岐阜大学マスキングテープ(2種類)**」を進呈いたします。プレゼントをご希望の方は、アンケートハガキにお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。

プレゼント応募締切:

令和6年5月31日(金)必着

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。※重複のご応募は無効とさせていただきます。



「岐大のいぶき」について

「いぶき」は、滋賀・岐阜県境にある伊吹(いぶき)山と生氣・活気を意味する息吹をかけて名付けられました。岐阜大学のある濃尾平野には、「伊吹おろし」と呼ばれる強い季節風が吹き込みます。これになぞらえ、本誌には、岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ感じさせたいという願いが込められています。

■発行：国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学広報企画室

■「岐大のいぶき」についてのご意見感想をお待ちしております。

送付先 / 国立大学法人東海国立大学機構総務部広報課

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 TEL 058-293-2009 / 3377 FAX 058-293-2021

Email kohositu@t.gifu-u.ac.jp

岐大のいぶきは WEB からご覧いただけます!

<https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/publications/ibuki.html>



岐阜大学公式
X (旧 Twitter)
やっています。



こちらからアクセス!